

校長室より

「天空高き」



第136号



令和2年8月4日

油断大敵 ーいつでも、どこでも、だれといても…ー

4月7日、始業式。8日、入学式。1週間後の4月15日～5月24日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休業。5月25日から授業を再開し、今日、8月4日、無事に、皆さんと終業式を迎えることができ、嬉しく思います。

いま、世界中で新しい生活様式ー3密を避け、マスクの着用と手洗いと一定の距離を保つことーが求められています。そして、行事、イベント等の人数制限も設けられています。

私たちの生活様式は、一年前と大きく変わりました。新型コロナウイルスの感染防止のためには、私たちの生活を変えざるを得なかったのが、実情ですが……。

新型コロナウイルスのワクチンと特效薬が開発されない限り、私たちは不安を抱えながら、新しい生活様式を続けて行くしかありません。しかし、ここで再び、新型コロナウイルスの感染者が各地で増加し始めています。

一番の原因は、自粛規制がとれて、人が大きく移動し始めたことです。

皆さんも夏休みに入ると、オープンキャンパスに参加するために、職場見学のために、移動します。また、旅行に出かけたり、お盆には、親族の集まりがあるかもしれません。大切なことは、いつでも、どこにいても、誰と会っていても、油断しないことです。新型コロナウイルスは私たちの目には見えません。油断していると、そのスキマからウイルスが侵入してきます。

毎日の検温、健康観察。3密を避け、マスクの着用、手洗い。そしてソーシャルディスタンス、一定の距離を保つこと。さらに、免疫力を高めるために、バランスのとれた食事、十分な睡眠と適度な運動に心掛けること。

油断大敵です。この言葉を忘れないで新しい生活様式を実行し、続けていくことが、自分自身を守り、人への感染防止になります。

感染対策やっています！



短い夏休みです。1日1日を大事に過ごして下さい。

コロナ禍の夏を制す！

日本の夏は蒸し暑い。今年はその上に、新型コロナウイルス対策が必要です。

3年生の皆さん、「夏を制する者は受験を制す」と言われています。

今年は短い夏休みですが、コロナ禍の蒸し暑い夏休みをどのように過ごすか、特に3年生の皆さんにとって、とても大事になります。



わたしの実家は錦川上流の錦町広瀬という、自然豊かな所でしたので、受験勉強は、比較的過ごしやすい、早朝・夕方・夜の3部に分けてしました。日中は盆地で暑いので、昼寝と水泳(川で)にあて、気分転換を図っていました。この気分転換が良かったのか、ほぼ計画通り過ごすことができました。それが自信となって、2学期以降に徐々にですが、成果となって表われてきました。

学力＝集中力×時間です。毎日の小さな積み重ねがとても大事です。集中力を持続させるためには、適度な気分転換が必要です。私の場合は、それが昼寝と水泳でした。それが自分へのごほうびでした。

3年生で就職志望の皆さんは、この夏休み前後に応募前職場見学を含め、就職先がどのような生徒を求めているのか、対策を練る必要があります。そして、基礎学力、面接、作文等の対応を含め、綿密かつ具体的な計画を練る必要があります。1日は24時間あります。睡眠を8時間、学習を8時間、そして自由時間を8時間、それを基本形にして、一人ひとりが、今の状況を踏まえ、自分に合った計画を立ててください。

1、2年生の皆さんはクラブ活動もあります。3年生とはまた違った形の1日の計画になります。大切なことは、いかに毎日を充実したものにし、続けられるかです。まずは実行です。

日本語化について -カタカナ語の氾濫-

新型コロナの出現に合わせて、皆さんは「クラスター」という新しいカタカナ語を耳にするようになったと思います。私は最初、この「クラスター」という言葉を聞いたとき、その意味がよく分かりませんでした。何回も聞いているうちに、前後の文脈から、「集団感染者」という意味ではないかと思いました。皆さんはどうでしたか。

近年、次から次に新しいカタカナ語が発生しています。カタカナ語の濫用だと批判されることもあります。しかし、日本語自体が、外来語から成り立っています。日本語の起源(ルーツ)をさかのぼれば、もともとは、日本には固有の日本語がなかった

ようです。

漢字は4世紀～5世紀にかけて日本に伝えられ、それ以前の日本には固有の文字はなく口伝えでした。

漢字が中国から伝わると、日本人は日本独特の漢字もつくり出し、それまで口伝えで伝えていた日本語の音を表記するために万葉仮名（まんようがな）がつくられました。

万葉仮名が由来となり、平安時代初期頃（8世紀～12世紀）に、ひらがなは漢字を簡略化したものから作られ、カタカナは漢字の一部を取って作られました。

新型コロナウイルス関係

- ・ロックダウン
- ・クラスター
- ・アラート
- ・ソーシャルディスタンス
- ・オーバーシュート
- ・アウトブレイク
- ・ステイ・ホーム

私たちの先祖は、自分たちが使いやすいように、わかりやすいように、長い時間をかけて、漢字からひらがなやカタカナを作り出しました。そのおかげで、私たちは日本語をこうやって文字にすることができ、自分の気持ちや考えを相手に伝えることができるようになりました。日本語の豊かさの1つに、漢字、ひらがな、カタカナという3種類の文字があることが挙げられます。

私たち日本人は、当時の国際語である中国語の文字や語彙を広く受容しながら、徐々にそれを変化させて日本語を作り上げました。そこが先人の素晴らしいところだと思います。

今、世界はグローバル化して、日本にもいろいろな外来語が入ってきています。それをどのようにわかりやすく表記して日本語に取り入れ、定着させるかがとても大事な作業です。私たち日本人の知性と感性が問われます。

新型コロナウイルス関係で使用されているカタカナ語だけを見ても、わかりにくく、使いづらいのが現状です。せめて、中学生が読んで理解でき、使用できるレベルでの日本語化に取り組んでもらいたいと思います。皆さんはどうでしょうか。

これからも探究心をもって — 藤井聡太棋聖 —

最年少17歳11カ月で初のタイトルを獲得した将棋の藤井聡太棋聖（17）。その快挙から一夜明けての会見でのコメント。

「将棋は本当に難しいゲーム。これからも探究心を持って、盤上に向かっていきたい」

彼の素晴らしいところは、大きな結果に満足せず、謙虚にさらなる成長を目指して、地道な努力を重ねていることです。

また、対戦が終わった時、彼は深々と将棋盤より低く頭を下げています。彼のこのような謙虚な振る舞いは実に見事で、彼の人の良さを如実に表しています。



ABEMA TIMES より

このような真剣勝負の場における彼の態度は冷静で、彼の周囲に対する感謝の心と謙虚な姿勢は、私たちに清々しさを感じさせてくれます。彼はきっとこれからも私たちに「ワクワク、ドキドキ」感を届けてくれるでしょう。

8月の月間目標

油断大敵！

令和2年度
チャレンジ目標

- 1 5分前考動
- 2 整理整頓
- 3 先に元気な挨拶
- 4 1%を誰かのために

7月3日以降に熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨で、亡くなられた方々にご冥福をお祈りするとともに、災害に遭われた方々に対してお見舞い申し上げます。

近年日本列島は毎年集中豪雨に襲われます。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、災害訓練が実施できていません。本校の避難場所はグラウンドですが、津波が想定される場合は、普通科は食堂横の駐車場、中学・六年制普通科は短大中段の駐車場になっています。

災害や火災の状況によって避難場所が変更になる場合があるかもしれません。自分自身の命を守ることが一番大事なことなので、臨機応変に安全な場所の確保に努めてください。

二十四節気

立秋（りっしゅう）8月7日頃 立秋は暦の上で秋が始まる日となります。

立秋を過ぎてから秋分（9月23日ごろ）までの気温の高い状態を残暑と呼び、立秋から8月末までのなかなか終わらない暑さを見舞う葉書を出す場合は残暑見舞いとなります。立秋から秋とはいっても名ばかりで、まだまだ暑さが続く時期で熱中症などには十分注意が必要です。実際の秋を感じ始めるのは例年9月初め頃からとなります。

処暑（しょしょ）8月23日頃 処は落ち着くという意味があり、処暑は、暑さが落ち着き始める頃です。処暑の頃は、まだまだ厳しい残暑の日がありますが、北の高気圧が現れ、涼しい空気が入りやすくなります。本州などでは8月も下旬となると熱帯夜から開放される日も多くなり、内陸地方では朝方に露の降りることもしばしばで、秋の虫の音色でより一層秋の気配を感じられるようになります。 「お天気、com」

「仏教は2500年の間にたくさんお教えができました。でも大切なことは、『私の口で悪いことを言わない。私の頭で悪いことを考えない。わたしの身体で悪いことをしない』この三つだけです。大切なのは、人にやさしくすることです」

臨濟宗妙心寺派妙善寺住職 長島 宗深